



消防関係総務大臣表彰式
総務省 消防庁



【上段】令和4年度優良少年消防クラブ・指導者表彰 【下段】令和5年度安全有功者・消防有功者総務大臣表彰



会報

防災だより

2023
VOL.31

9月30日発行

CONTENTS

1. 新部会長ご挨拶	2・3 P
2. 第14回防災意見発表会	4 P
3. 令和5年度定時総会	5 P
4. 防火管理に関する講習を開催(後援)	5 P
5. 優良少年消防クラブ・指導者表彰	6 P
6. 安全有功者総務大臣表彰	6 P
7. 第45回少年消防クラブリーダー研修会(後援)	7 P
8. 令和5年度事業計画	8 P
9. 新規加入事業所紹介	8 P
10. 消防本部からのお知らせ	8 P



ご挨拶



五戸部会 部会長 植 嶋 平 治
(東北メディカル学院)

この度八戸地域防災協会五戸部会長に就任しました、植嶋平治と申します。私は奈良県生駒市の出身で25歳まで奈良県に住んでおりました。就職しました仕事の関係で再び故郷に居住することはなく、転勤で引っ越しを繰り返しながら、最終的に神奈川県鎌倉市に落ち着きました。4人家族ですが2人の娘はそれぞれ家族を持ち、浜松（静岡）と平塚（神奈川）に住んでおります。その後本来は家内と2人の生活になるはずでしたが、私が五戸町にある東北メディカル学院に単身赴任することになったため、家内は自由を謳歌しているようで、おかげで幸か不幸か夫婦円満に過ごしております。

今は定期的に自宅に帰ることが可能ですが、コロナが蔓延し始めた2年前は、ワクチンも検査薬も十分になく、いったん県外に出ますと、2週間は職場にもどれず、1年間で数日しか自宅に帰らなかったこともありました。

さて、防災協会といった組織は今まで経験したことがありませんが、とりわけ当三八地区の防災意識の高さには目を見張るものがあります。地元根付いた消防団の活動は、防災意識と、地域コミュニティーにはなくてはならない絆を醸成する仕組みとしてこの地で確固たる位置を築かれておられます。日本の治安の良さを生み出している仕組みとして、交番の制度が海外から注目されているように、この消防団の仕組みは世界に誇れる活動であり、同様に地域防災を担う八戸地域防災協会の役割は極めて重要であると感じております。これからも当協会でご学ばせていただきたく、皆様のご支援とご協力を切にお願いする次第です。これからもよろしく願いいたします。

ご挨拶



おいらせ部会 部会長 成田輝彦
(株式会社 成田総合設備)

この度、八戸地域防災協会おいらせ部会 部会長に選任頂きました成田輝彦と申します。

私は、おいらせ町にある(株)成田総合設備の代表を務めております。当社は設備工事業として主に消火設備工事（スプリンクラー設備等）の工事をしています。その為日頃より消防関係者の方々には大変お世話になっております。又私自身も2年前まで地元消防団員として29年間在籍しました。今現在は本団団員として活動しており、このような活動で日頃からあらゆる防災関係に携わっています。

今国内では、線状降水帯による豪雨被害や、過去に例を見ない猛暑等自然災害が頻発に発生しております。自然災害を止める事は出来ませんが事前情報を元に防災対策は出来ると思います。その為にも日頃よりご近所や地域の皆様との連絡又は情報共有などに取組み災害時の減災の為の備えが改めて大事だと思います。

又、新型コロナウイルス感染症による影響で3年間という暗い世の中の停滞も今年の5月より5類に引き下げになったのを機に経済活動も活発化し始めた事に大変嬉しく思います。

今後はおいらせ部会としても、各種講習会や視察研修等様々な事業の企画を実施し、これまで以上に事業会員の皆様や消防署員皆様や地域の方々との連携の強化を図っていきたいと考えておりますので、会員の皆様におかれましては、これからのご支援ご協力ご指導をお願い申し上げます。結びに会員各位はじめ関係者各位のご健勝、ご多幸を祈念し挨拶といたします。

第14回 防災意見発表会

定時総会に先立ち、八戸プラザホテルプラザアーバンホールにおいて会員124名が参加し「第14回防災意見発表会」が開催され、会員事業所2名、少年消防クラブ1名、消防職員1名の計4名の方が防災に関する発表を行いました。

発表者の貴重な体験や提言に、出席した多くの会員が聞き入り、大変有意義な意見発表会となりました。金濱消防長から、「防災活動は日々の取り組みの積み重ねで養われていく。今後も職場、地域に防災の輪をひろげていただきたい。」と講評をいただきました。



齊藤会長あいきつ



金濱消防長講評

「防災訓練とは」

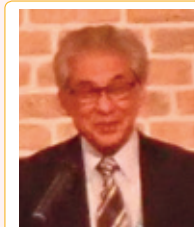


八戸市水産科学館
マリエント
清水 勉さん

清水さんは、水産科学館マリエントにおいていつ起こるかもわからない災害が起こった時、被害を最小限に食い止めるためにどのように行動すべきか。

災害時の行動を円滑にできるようにするためには、日々の避難訓練で避難経路の把握、スタッフ内での避難方法の共有、避難場所等を明確にすること。常に防災意識を職員全員が持ち災害がいつ来ても慌てることのないよう備えていきたいと発表されました。

「お客さま、従業員を守るための防災」



株式会社サンデー
木村 健一さん

木村さんがお勤めの株式会社サンデーは、八戸市と災害時の協定を締結されており、八戸市総合防災訓練にも参加し、防災関連品の展示や地域のお客様の防災への意識づけに協力しています。

店舗においても、災害または防災に関する商品を年に数回目立つところに陳列し、来店いただくお客様の防災に役立てていただけるよう取り組んでいます。

新たな取り組みとして、IOS22301 事業継続マネジメントシステムの取得を進めており、事業を継続することにより、災害時地域のお客様のための店舗をさらに強めていきたいと発表されました。

「学校防災の取り組み」



千葉学園高等学校
消防クラブ
齋藤 大輔さん

千葉学園高等学校消防クラブは、2019年「消防庁長官賞」を受賞、2022年には消防クラブ員が中心となって防災思想の普及に力を入れてきたことが評価され、「防災功労内閣総理大臣表彰」を受賞、今年度は、指導者表彰として齋藤様が「総務大臣賞」を受賞いたしました。

クラブの活動を通して、「人の命は人の手で救える」ということ。多くの人々が災害時の対処法を知っていれば、万が一、大きな災害が起きても、私たちは手を取り合い、助け合える。消防クラブ指導者として、活動をたくさんの人に広め、そして私自身、人の役に立ち、人を救える人になりたい。今後も学校と地域の安全のために防災意識を高めながら地道な活動に取り組んでいきたいと考えています。と発表されました。

「失われた55%」



八戸消防署
尻内分遣所
藤田 晃平さん

藤田さんは、令和5年2月に開催された「青森県消防職員意見発表会」に八戸消防本部代表として出場し、優秀賞を受賞されました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、マスクの着用が当たり前となった日常から3年経ち、今ようやく屋外では外すことが可能となってきています。

人間はコミュニケーションをとる時、視覚から55%、聴覚から38%、言語からは7%の情報を得ると言われています。マスクで顔の見えない救急隊が次々と質問する緊迫した現場で、聞きたい情報を聞くことができなかったという経験から、相手の目を見てゆっくりと穏やかな口調でマスクの下で笑顔を作るような気持ちで話すように改善したところ傷病者やその家族から「ありがとうございました」と言われる回数が増えていました。実践したことは難しいことではありませんでしたが、失われた55%を補うことができていたのです。地域住民と接する場面において実践することで、地域住民が思う消防へのイメージが格段に上がると確信しています。と発表されました。



令和5年度 定時総会開催



去る5月18日(木)、八戸プラザホテルプラザアーバンホールにおいて、令和5年度八戸地域防災協会 総会が開催されました。

総会は会員116名が出席の中、齊藤会長が議長を務め、令和4年度事業結果報告、収支決算報告、更に令和5年度事業計画(案)、収支予算(案)を事務局が説明し承認・議決されました。続いて役員改選が行われ、40名の役員が選任されました。

審議終了後には、功労者表彰が行われ、感謝状及び記念品の贈呈が行われました。

功労者表彰受賞者は次の方々です。



功労者表彰受賞者と齊藤会長

(左から)
石鉢勤前監事
保土沢順一前副会長
齊藤会長
小川洋一郎前副会長
※梅田正彦前副会長、
加藤芳代理事、
金沢孝志前理事は、
諸事情により欠席

総会後には同会場において、4年ぶりに懇談会が行われ、会員相互の親睦が図られました。



防火管理に関する講習を開催(後援)

令和5年度前期の防火管理に関する講習は、甲種防火管理新規講習が4回、甲種防火管理再講習が1回、八戸消防本部で開催されました。



消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、本講習は、その資格を取得するためのもので、計232名の方が講習

を受講されました。

今年度の講習は、新型コロナウイルス感染の規制緩和の方針を受け、各講習の受講者定員を増やして開催しており、さらに甲種防火管理新規講習4回、乙種防火管理講習、甲種防火管理再講習各1回の開催を予定しております。



令和4年度 優良少年消防クラブ・指導者表彰(フレンドシップ)

令和5年3月28日(火)都市センターホテル(東京都千代田区)において優良な少年消防クラブ指導者として千葉学園高等学校消防クラブ 齋藤 大輔氏が総務大臣表彰を、優良な少年消防クラブとして梨ノ木平少年消防クラブ(八戸市)、八戸市立第一中学校消防クラブが消防庁長官賞を受賞いたしました。

少年消防クラブは、小学校から高校生までの少年少女が防火及び防災について学習し、防火パトロールや防火・防災に関する研究発表の実施などの活動を行っています。

令和4年5月1日現在、全国のクラブ数は4,150クラブ、クラブ員は約39万人、指導者は約1万3千人、数多くのクラブの中からの受賞となりました。



令和5年度 安全功労者総務大臣表彰

令和5年度安全功労者・消防功労者総務大臣表彰式が、7月18日(火)東京都千代田区の総務省講堂において行われました。

安全功労者総務大臣表彰は、「安全思想の普及徹底又は安全水準の向上のため、各種安全運動、安全のための研究、もしくは教育又は災害の発生の防止もしくは被害軽減に尽力し、又は貢献した方々の士気高揚を図る」という目的で、消防職団員以外の個人団体を受賞対象として行っているもので、個人の部において、八戸地域女性消防クラブ協議会会長奥田マサ子氏が受賞しました。



第45回少年消防クラブリーダー研修会（後援）

令和5年7月26日(水)八戸消防本部及び八戸市新井田川水防センターを会場に、第45回少年消防クラブリーダー研修会及び消防体験研修会が行われました。

当初は、青森県種差少年自然の家における2泊3日の研修会を企画していましたが、体験型の1日研修会に変更して開催し、今年度は小中学生31名のクラブ員が参加しました。

当協会は、研修会の後援となっており、開会式において齊藤会長から励ましの言葉とともに、記念品としてわが家の防災チェックブックを参加者全員に贈呈しました。



記念品贈呈

わが家の防災チェックブック



防火衣装着体験



ロープ結索体験



放水訓練



40mmホース展張訓練



救急講習

防災意識を育む目的で実施しているこの研修会では、少年消防クラブのリーダーとしての協調性や指導力を身につけ、防火・防災の知識や災害対応力向上のため、放水訓練、濃煙体験、地震体験などを実施しました。



地震体験

気温30度を超える炎天下での開催でしたが、クラブ員はみんな元気に体験し、研修会体験レポートでは、「他のクラブの人と協力して活動でき、仲良く過ごせた」「人の命を守れるようになりたい」「また来年も参加したい」との声があり、それぞれに楽しみながら災害から自分の身を守る方法を学び、有意義な時間を過ごしたようでした。



濃煙体験



令和5年度 八戸地域防災協会 事業計画

1 避難行動要支援者支援事業

- (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
- (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理

2 防火防災思想普及事業

- (1) 火災予防運動用ポスター作製及び配布
- (2) 各種防火チラシ作製及び配布

3 研 修

- (1) 消防設備等の研修
- (2) 各種施設等の見学
- (3) 講演会の開催
- (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
- (5) 救命講習会の実施
- (6) 防災士の養成

4 機関紙の発行

5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供

- (1) 防火管理講習会の後援及び実施の周知
- (2) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供

6 幼年・少年・女性消防クラブの育成援助

7 加入促進事業の推進

8 防災フェスタ2023の開催

9 枚方市寝屋川市防火協会創立70周年記念式典・祝賀会

新規加入事業所紹介 (令和5年9月1日現在)

○八戸部会

- ・アキヨシビル

所在地：八戸市大字長横町 15 - 8
TEL：0178-45-5280

○おいらせ部会

- ・社会福祉法人北斗会 菜の花こども園

所在地：おいらせ町緑ヶ丘2丁目
50番地1161
TEL：0176-53-8670

消防本部からのお知らせ

第51回全国消防救助技術大会が開催

令和5年8月25日、北海道札幌市において第51回全国消防救助技術大会が行われ、八戸消防本部からは、陸上の部に2種目8名、水上の部に3種目9名が出場しました。

その結果、陸上の部ほふく救出に出場した酒井チームは、日ごろの訓練成果を十分に発揮し、全国第2位の成績を収めました。

